

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東京福祉大学 実施報告書



実施主体 保育児童学科保育児童専門演習Ⅱ(ゆうゼミ)他有志170名
実施内容 平成25年9月～11月 大学祭や地域での啓発活動

①事前に取り組んだ内容

●ゼミで「学生の出来るオレンジリボン運動」を討論して計画を立案した。●活動を広げるために、学科の1年生全員、2年生の有志に活動と呼びかけ、総勢170名を組織した。●また、地域と連携して進めるために、大学が立地する伊勢崎市市役所児童福祉家庭課と協力して勉強会を開き、事前に児童虐待防止について学んだ。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

●大学内にポスターを掲示し、学生・職員にオレンジリボンを配布した。●大学祭において展示、模擬店、工作のコーナーを設け、児童虐待防止活動を訴えた。(来場者600人)●市内の店舗・金融機関・学校・幼稚園等へ赴き、ポスター掲示の協力を依頼した。また、市役所で行なわれたオレンジリボン展示(11月5日～15日)に手伝いとして参加した。●本学でのオレンジリボン運動の報告を兼ね厚生労働省を訪問し、国として取り組む児童虐待防止活動を学んだ。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

●今回の活動で感じたことが三点ある。一つは、ゼミの呼びかけて多くの学生が参加してくれたことである。たくさんのグループが協力して取り組み、1年生にとっては貴重な経験となった。また、地域の商店や銀行、ホテルなど様々なところが思いのほか協力してくれた。

●二つ目は、「オレンジリボン運動」の認知度の低さである。大学祭の来場者にアンケートを採ったところ、「オレンジリボン運動」について「知っていた」と答えたのはわずか20%と少なかった。これからさらに広げていかなければと感じた。

●三つ目は「児童虐待」を事前に防ぐためには、学生だけではなく、母親・父親・祖父母・親戚にも関心を持ってもらい、さらに、子ども自身が行える「オレンジリボン運動」を創ることが必要だと思った。これから先も様々な形で「オレンジリボン運動」を続けていきたい。

